



Hamamatsu Museum of Musical Instruments

No. 22

浜松市楽器博物館だより

2001. 1. 2



平成12年度 国外フィールドワークより

タンザニア ゴゴ族の“愛のおどり”

タンザニア、正式名タンザニア連合共和国。赤道のすぐ南に位置する。面積94万5千平方キロ。日本の2.5倍、東アフリカ最大。人口3,100万人、人口密度約30人。本土部の旧イギリス領タンガニーカと沖合いの島々ザンジバルが統合して1964年に成立した国。およそ120の部族が住むという。

日本人には、残念ながら現状では遠い国のひとつだが、コーヒーの銘柄にもなっているアフリカ最高峰キリマンジャロ山のある国、200万年前の人類アウストラロピテクスの骨が発見された国、ほぼ岩手県の広さに匹敵するセレゲンティ国立公園をはじめとする広大な動物保護区に、多くの野生動物が住む国、熱帯魚のふるさとビクトリア湖やタンガニーカ湖のある国、といえは親しみがわくだろうか。そんな国タンザニアで、11月に楽器と音楽文化の調査

を行った。

写真は、実質上の首都ダルエスサラムから東へ600キロの内陸部、法律上の首都ドドマ近郊、ゴゴ族の村マジェレコ村での風景。二人の男性が一人の女性を口説き、最後に女性がお気に入りの相手を選ぶ。祝いの席などで披露する踊り‘スニユノ’である。男性が自己アピールするしぐさが、何とも言えず可愛い。大きい割にとっても軽いので膝にはさめる太鼓‘ンゴマ’は女性が担当。男性は、ブリキ缶から作った長方形の平たい容器に植物の種を入れたガラガラ‘カヤンバ’を両手で持ち、太鼓と違うリズムを細かく刻む。灼熱の太陽と赤土がまぶしい昼下がり、手元の温度計は42℃。ゴゴ族の人々の優しい微笑みと明るいうリズムが強烈に焼き付いた。(K.S)

(関連記事2面)

国外フィールドワークより “夕暮れのサンザ”

楽器博物館では平成9年度から、資料収集を兼ねて、楽器と音楽の現地調査を行っています。4年目にあたる今回は、11月にアフリカ・タンザニアにて調査を行いました。日本を10日に発ち、23日に戻りましたが、往復に4日かかるため、現地滞在10日間という調査でした。

1面で紹介したマジェレコ村での一連の演奏が終わると、もう夕暮れ。撮影機材の片づけをしていると、聞こえてきたのが‘サンザ’の音。博物館ではサンザと表示していますが、地域や部族で名称が変わり、ゴゴ族では‘マリンバ’とか‘チリンバ’などと呼んでいます。細くて薄い鉄片を木箱に取り付けて親指ではじくのです。太鼓の強烈な響きに比べて、これはとてもやさしく、ファンタジーな音。アフリカ版オルゴールと呼んでもいいでしょう。

村の広場の椅子に座り、少しは涼しくなった空気の中でサンザをひく少年と周りで聴く友人たち。ア



サンザをひく少年

フリカの優しさにふれることができた幸せな時間でした。(K.S)

楽器博物館5年の歩み その3～アジア・アフリカ展示室のオープン～

浜松市楽器博物館は、世界全域の楽器を収集・展示の対象にしていますが、全ての楽器を収集するには長い年月がかかります。そこで平成7年4月のオープン時には、まず、旧ローゼンバウム・ファミリーコレクションを核とするヨーロッパの古い楽器

と日本の楽器、総計600点の展示、ならびにオープン記念特別展として、それ以外の地域からも竹とひょうたんの楽器を約300点ほど展示するという体制でスタートしました。しかし、特別展は5月



オープン当時の展示室 約250点を展示

じめで終了し、その後しばらくはヨーロッパと日本の楽器しか展示していないという、少し寂しい状態が続きました。世界の楽器を展示する博物館、というコンセプトをできるだけ早く市民に示したい、そんな願いがかない、翌平成8年の9月28日にアジア・アフリカ展示室をオープンしました。ヨーロッパや日本展示室に比べると、簡素な展示台でヘッドフォンも設置されていない仮の展示ですが、ヨーロッパや日本のどちらかといえばスマートな楽器や展示に比べると、対照的に野生味あふれるエスニックな雰囲気展示室全体に漂い、楽器博物館のあるべき姿の一端を示すことができました。

新着資料展を開催します！！ 平成13年1月27日(土)～2月18日(日)

平成12年収集の新着資料の一部を公開します。
下記の方々には貴重な資料をご寄贈いただきました。
ここに芳名を記し、改めて感謝申し上げます。
なお、この寄贈資料は新着資料展にて展示いたします。

《資料を寄贈いただいた方々》

(平成12年2月1日～12月15日寄贈分)

神谷範男(浜松市) リードオルガン
日本形染株式会社(浜松市)

中村直行(浜松市) リードオルガン
川村ヨシ(志太郡) リードオルガン
泉 淳子(東京都) リードオルガン
鈴木積平(浜松市) リードオルガン用リード

ほか1点
菅 豊(大阪府) ハモンドオルガン
小林 茂(千葉県) アップライトピアノ
綾部邦雄(福岡県) アップライトピアノ
近間 薫(埼玉県) アップライトピアノ
鳥居あや子(浜松市) 箏 ほか2点
織田 正(浜松市) 能管 ほか10点
彦坂克己(浜松市) 三味線加工途中品
安藤由典(福岡県) 尺八・横笛調査資料
杉本守弘(島根県) 小鼓制作途中品



ハモンドオルガン

安成哲三(茨城県) サーランギ
竹田絹予(浜松市) カチャピ
大築隆子(群馬県) 洞簫 ほか30点
松本吉治(浜松市) トゥルン ほか2点
上野哲路(東京都) ディジェリドゥー
近藤 聖(ギリシア) ブズキ
静岡県立厚生保育専門学校(静岡市)
アコーディオン ほか6点
太田基一郎(浜北市)
SP盤洋楽レコード91点
佐藤信之(神奈川県) オークラウロ
山田能司(浜北市) アコーディオン
(寄贈順、敬称略)

楽器博物館

ボランティア活動 (10月～12月)

今年度からはじまり、徐々に軌道に乗り始めたボランティア活動に、11月から新たに展示品の演奏が加わりました。

これは、毎日1時間毎に行われる展示品の演奏を職員と共同でボランティアの方が行うもので、お客さまと直接触れあうことが出来る活動であり、また日々の練習の成果を発揮できる場所ともなっています。



ピアノの演奏 (1860年・パリ・プレイエル製)

移動楽器博物館

「わくわく楽器ランド」(10月～12月)

浜松市内の小学校を巡回する移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」(浜松市楽器博物館・アクトシティ音楽院共同事業)も回を重ね、ますます充実してきました。第7回・第8回が下記の日程で開催されました。また、来年度開催校の募集も始まりました。

第7回	都田南小学校	11/6(月)～11/8(水)
第8回	芳川小学校	11/29(水)～12/1(金)



雷みたいな音だ！ 膜にバネを付けて振る実験

◆これからの催し物案内

★特別展「オセアニアの楽器 ・神と精霊のメッセージ」

3月24日(土)～5月6日(日)

楽器博物館地階展示室 特別展観覧料が必要です

とてつもなく広い太平洋に、ニューギニア島をはじめとするメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々、そしてオーストラリア大陸からなるオセアニア。そこには神や精霊と深く結びついた暮らしがあり、儀式や音楽や楽器が今も残っています。この特別展では、平成11年9月に実施したパプアニューギニア・セビック川中流域実地調査での収集資料を中心にして、オセアニアの楽器と人々の暮らしを紹介します。



祝いの踊りで太鼓“クンドゥ”を演奏

★報告会 浜松楽器風土記 「ピアノづくりの変遷」

1月28日(日) 14:00 研修交流センター 401会議室

★報告会 三遠南信芸能調査 「文化としての郷土歌舞伎」

2月24日(土) 14:00 研修交流センター 401会議室

平成10年度より、浜松市内のピアノ産業、並びに三遠南信地域の村や町に伝承する歌舞伎の調査を実施してきましたが、昨年、一昨年の調査内容もふくめて、まとめの報告を行う予定です。

★浜松古楽フェスタ

2月4日(日) 10:00～21:00

会場：楽器博物館展示室、研修交流センター1・2階
21音楽セミナー室

浜松市内外からリコーダー・アンサンブル、バロック音楽合奏団、チェンバロやフォルテピアノ演奏家、ルネサンス・ダンス・グループなど古楽愛好家が集まり、演奏会や楽器・楽譜等の展示販売とワークショップを開催します。18:30からは楽器博物館所蔵のオリジナル・チェンバロ(1646年イタリア製)、フォルテピアノ(1808年頃イギリス・ブロードウッド製)、ピアノ(1860年頃パリ・ブレイエル製)を使用した演奏会(有料)も行う予定です。

展示室ガイドツアー

1/7.14.21.28 2/4.11.18.25 3/4.11.18.25

各日とも11:00と14:00、展示品の解説

ミュージアムサロン

1/2「新春の調べ」13:00, 14:00

講師：大谷康(尺八奏者)、佐々木睦美(琴奏者)

1/21「中国の弦楽器・中阮の調べ」13:30, 14:30

講師：陳淑珍

2/18, 3/18 未定

展示品の演奏

毎日 10:00～16:00の間で一時間毎

展示品の演奏デモンストレーション

企画展「楽器ワンダーランド」

12/23(土)～1/8(日)

楽器の仕組みを体験しながら学べます

常設展観覧料のみでご覧いただけます

タンザニア・フィールドワーク速報展

12/23(土)～1/8(月)

タンザニア・フィールドワークの様子をビデオと写真で簡単に紹介します

「新着資料展」

1/27(土)～2/18(日)

2000年に収集した楽器を披露します

常設展観覧料のみでご覧いただけます

◆博物館日誌

10/1.8.15.22.29

展示室ガイドツアー

10/15 ミュージアムサロン「ギターミニコンサート」

講師：佐藤剛(当館職員)

11/3 県民の日につき無料開館

11/5.12.19.26

展示室ガイドツアー

11/10～11/23

国外フィールドワーク(タンザニア)

11/19 ミュージアムサロン「鼓のひみつ」

講師：竹内明彦(鼓奏者)

12/3.10.17.24

展示室ガイドツアー

12/17 ミュージアムサロン

「ギターとリコーダーのクリスマス」

講師：嶋和彦、佐藤剛、内山聖子(当館職員)

◆9月～11月の観覧者数

	9月	10月	11月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	4,268	4,674	5,824	14,766	396,645
中人	29	154	221	404	15,071
小人	541	938	1,563	3,042	89,921
幼児	242	187	278	707	22,606
計	5,080	5,953	7,886	18,919	524,243

利 用 案 内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9:30～午後5:00

休館日：月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、
館内整理日(1/31、2/28、3/28)

常設展観覧料： 個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)

大人(大学生以上) 400円 320円 240円

中人(高校生) 200円 160円 120円

小人(小・中学生) 100円 80円 60円

※館内には、お手荷物の持ち込みはできません。

浜松市楽器博物館だより

平成13年 1月2日発行

No.22

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

T E L. 053-451-1128

F A X. 053-451-1129

URL: <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/>

gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp

印刷 株式会社シバプリント